

令和6年度 第4回学校運営協議会 議事録

第1回：令和6年度 学校運営協議会（発信者ごとの要点議事録）	
日 時：令和7年 1月11日（土曜日） 14：30～15：30	
場 所：西東京市立田無第二中学校 会議室	
出席者：折田 和文（会長）、真鍋 五十鈴委員（副会長）、勇 昇一委員、 一之瀬 裕幸委員、山崎 英昭委員、本間 孝子委員、奥村 咲子委員、 吾妻 隆一委員、矢野 尊久委員、南川 広幸委員 委員10名全員の出席により、本会議は成立	
次第1	作品展示の見学
次第2	校長挨拶 司会：副校長
校長：	明けましておめでとうございます。本校は9日から3学期が始まりました。市内の小中学校は大体8日からのスタートで、本校は少し余裕をもったの新学期スタートとなり、生徒たちも元気に登校いたしました。3学期はとても短い学期ですので充実し主体的な学期になるように頑張りたいと子どもたちに伝えていきます。3学期は短い割にはいろいろな行事があり、一年生はスキー教室、二年生は校外学習で都内巡り、三年生は受験と卒業式などあります。本日も校内作品展も開催しております。3学期が次の学年や学校につながるようにしていきたいと思います。本日の第4回学校運営協議会をよろしくお願いいたします。
副校長：	それではここから議題に入りますので、会長に司会をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長：	皆様、本年もどうぞ宜しくお願いいたします。
次第3	議題
	(1) 第3回協議会 議事内容確認
会長：	少しお時間を取りますので、議事内容の確認をお願いいたします。 ご意見やご指摘がないようですので一応承認といたしますが、何かございましたら来週16日木曜日までに副校長までにお知らせください。 次に、議題2の保護者アンケート及び授業アンケートの結果についての説明をお願いします。
	(2) 保護者アンケート及び授業アンケートの結果について
校長：	12月号の学校だよりの見開き及び裏面にまとめを紹介しておりますが少し早めに「保護者アンケート」を実施いたしました。例年は1月頃に実施し2月頃に集計しておりましたが、アンケート結果を直ぐに皆様にお知らせし、その集計結果を3学期に活かせることが出来たらと考え、今年度は早めのアンケート集計を実施いたしました。今回のアンケートは保護者にとって分かり難い質問等があると感じ、文言や質問を少し変えました。大きく変わったのは問5でしょうか。 「将来、自立した社会人になるために、困難な状況に対しても、めげずに、粘り強く取り組む生徒の育成に取り組んでいると思いますか」という問に対して、結果としては良くも悪くもありませんでした。今の子どもたちはとても大事にされているという感じがしていますが、教員社会をみても新採の教員の退職する率が非常に高く、“この先、自分で工夫したり、我慢したりしながら社会で活躍してくれるのだろうか”、“社会に出るとたくさんの摩擦や大変なことがあると思いますがそれに対する“頑張る力や忍耐力、粘り強さが育っているのだろうか”と、疑問になってきています。3割程度は“まだまだという結果”で、昨今の世の中の状況を考えると、あまり厳しい指導をするとクレームにつながる可能性もあり、なかなか難しい側面もある中で、これからの日本をけん引していく子どもたちが諸外国に置いて行かれる状況にするわけにはいかず、“ぜひ活躍し頑張してほしい”、“困難にめげずに突き進んでもらいたい”という気持ちでこのような問を取らせていただきました。

それから問 9 も少し変わりました。「お子様」という文言を加筆し、対象を明確にいたしました。その結果、問 5 と問 9 は数値的に下がっています。

毎年、数値的に低いのが問 12 で、“宿題の量”に関するもので、少ないと感じる保護者がいる反面、多すぎるというご意見や要望等もいただき、両極端な結果となっています。中学は教科担任制ですのでたまたま宿題が重なることがあります。教員も多忙を極めていることもあり、お互いのコミュニケーションが十分に取れていないことが我々の反省点ではないかと思っています。全体での結果はグラフを見ていただき、お言葉でいただいた回答は一部抜粋という形での記載となっております。

昨年度から保護者アンケートでは「QR コード」による回答を試みましたが回収率は紙ベースの方が良かったようです。また、学校便りの始めのページに記載しました生徒アンケート「学校生活は楽しいですか」という問では「友達とおしゃべりをしている時が一番楽しい」という事でした。1 学期のアンケート結果より少しだけ数値的には低くなっています。4 月の頃より人間関係が出来上がってくると、当然トラブルも出てきて『過ごし難い』と感じる子どもたちがきちんと考えられるようになってきた結果だと思います。結果を分析してみないとはっきりとした原因は分かりませんが、『1 学期楽しかった』と回答し、『2 学期は楽しくなかった』と回答した子どもを我々は把握しているので直接聞いてみたりすることで、もう少しはっきりとした分析結果が得られると考えています。

その他の結果はご覧いただければわかると思いますので、何かご意見がございましたら宜しく願いいたします。以上です。

会長： ありがとうございます。全体でいいですので質問やご意見がありましたら、お願いいたします。

問 16 の人数なのですが「そうは思わない」2%と「どちらかというそうは思わない」8%で 10%になるが具体的に何人くらいになりますか。

校長： 約 20 人前後と考えています。原因として考えられるのは、2 学期の終わり頃に SNS 関連のトラブルがありました。1, 2 年生の保護者会でもこの件についての質問はありましたが、3 年生ではトラブルはありませんでした。SNS の使い方が良く理解していない生徒同士のトラブルだと考えています。何気なく個人の特徴などを書き込んだことが悪口と取られてしまったことなどによるトラブルのようでした。当然、起こったこと全てに対して対応はしていますが、保護者としては当然「いじめられている」という事になります。『継続的ないじめ』や『教育委員会に報告するような重大事態』は一切ありませんでしたが、教育委員会に対しては“小さな事案も含めてすべて”を報告しています。重大事態は絶対に出さないように取り組んでいます。

必ず何かが起きた時点で直ぐに会議を開き、誰がどうするのか等を迅速に対応しています。決められた会議もあり、スクールカウンセラーや学年主任、生活指導主任などの出席のもと、きちんと先手先手で対策をしています。それでもそういった事案が出てきている以上、何とか対策をもっと練らなければいけないと思います。

副校長： 「そう思う」という回答がもっとも高かったのが、問 17 で「地域の方による講演会や体験（人権授業、職場訪問、職業座談会、職場体験、道徳授業地区公開講座の講演、高校の先生による授業体験、セーフティ教室、二中くつろぎ喫茶、夏休み学習教室）はお子様の育成に役立っていると思いますか」でした。

このような結果は学校運営協議会の皆様にお手伝いいただいている活動が高く評価されているという表れだと思います。いつも皆様には大変感謝しており、本当にありがとうございます。

(3) 田無二中 ペンキ塗りプロジェクトについて

副校長：年度当初にお伝えしていますが、ペンキ塗りを3月20日午前中に予定しております。今年は生徒たちの主体性を育てるという観点から『ボランティア部』とタイアップして行うことにしました。ボランティア部にはポスター・チラシ及びアンケート作成や当日の司会などを考えています。

資料8の協力者と仕事分担に関してですが、

① 学校運営協議会の皆様にはチラシができ次第、配布などによる周知にご協力いただければと思います。

② 同窓会からは当日の参加者に関わる経費（お礼としての飲み物など）の提供をお願いしたいと思います。税込で大体6000円ほどで充分だと思います。

買い出しはボランティア部に頼みたいと思います。

現時点でご報告できるのは、以上になります。

会長： 昨年も午前中だけで午後はなかったのですか。

副校長：昨年も午前中だけでしたが、後かたづけにかなり時間がかかりました。今年は片付けまで皆でやろうという案が出ています。

委員： 予定予算として、5万円とありますが大丈夫ですか。

副校長：学校の塗料代の予算と昨年の残りや機材や材料も使えるので予算内で大丈夫だと思います。

（4）令和7年度いじめ防止基本方針について

副校長：資料にあります『二中 いじめ防止基本方針』とはこれを基に学校でいじめ対策をするということですが、毎年改定する必要があります。今年度についても少し大幅に変えた箇所があります。資料3ページ目の（4）重大事態の対応についてという項目をしっかりと入れました。

この基本方針の骨子としては、

1. 基本的な考えとなる、いじめの定義の説明
2. いじめを起こさないための未然防止の取組の説明
3. 早期発見・初期対応するための取組の説明
4. 対応は担任だけが担うのではないので、組織的に学校としての対応と取組の説明
5. 多様ないじめが起きている状況の中で様々なケースに対応できるように校内研修を通して教員一人一人の指導力を高めていく取組の説明

この案件には『学校運営協議会の皆様のご意見も取り入れる』という指導もあり、皆様からお気づきの点やご質問がいただければとても有難いです。

説明は以上です。

副会長：校内研修に関してですが、単に講師の話を聞いたり板書をみたり資料を見たりするだけでなく、ロールプレイをしたり事例を基に疑似体験をしたりするような、より自分事として考えられる具体的な研修を行ってほしいと思います。

委員： 『5.組織的な対応の在り方』とありますが、『在り方』は“こうあるべきだ”という意味合いもあるので、もう少し柔軟な言葉でお願いしたいと思います。

副校長：この文言については再考させていただきます。

副会長：このような取組を保護者の方は理解されているのでしょうか。

副校長：保護者の方には説明しなくてはいけないこともあり、学期始めの保護者会で“いじめ”に関する前年度の資料に沿って説明をしています。

副会長：保護者の方が本当に理解されているのか気になります。

会長： “いじめ”から不登校になる生徒はいますか。

校長： 当校ではいません。そのようなことは重大事態として“絶対に不登校にしてはいけない”と考えています。我々は生徒の欠席の日数を数えながら、欠席が続いている生徒には、担任が本人や保護者と話しをし、家庭訪問などもしながら未然防止に努めています。

(5) 各委員より

副会長：年末にフラワー通りの商店で“これからの商店はどうしたいのか”という話が出ました。私も常々“商店街の方々にもっと二中に興味をもっていただきたい”と思っていましたので商店とつながるための“きっかけ”や“機会”を模索していました。フラワー通り商店街の次の世代を継ぐ人たちとの話しやご意見、顔繋ぎをしていく中で、来年度は何とか二中の生徒との繋がりを見つけていきたいと思っています。

また、放課後自習室や放課後カフェ『くつろぎ喫茶』も続けていくつもりですが、本日は継続するためのアンケートが出たということなので楽しみにしています。以上です。

委員：昨年10月に当社で『職場体験』で6名の受け入れを致しました。参加された生徒たちがどのような印象を持たれたのかは分かりませんが、そのうちの一人は谷戸小学校5年生から3年間にわたり当社の工場見学に参加してくれていました。

地域企業として地域の方々に理解していただくためにも大変ありがたいことだと思っています。

委員：昨年は“谷戸公民館開設40周年”という事で無事に年中行事を終えることが出来ました。ご協力ありがとうございました。

新年度には『第37回谷戸まつり』を4月26日(土)27日(日)に開催いたします。

先ほど開催された実行委員会では“キャッチフレーズ”も決まりました。「地域の輪 広がる つながる 谷戸まつり」です。とりあえず、開催のご報告させていただきました。今年は“焼きそば”“綿あめ”などに加え、“能登半島地震の復興を応援するためのふれあいバザー”も開催し、その売り上げの一部を寄付する予定です。また、詳細に関しましては皆様にまたお知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員：谷戸二小では今週から来週1月18日まで『防災ウィーク』を開催しています。一昨年から学年ごとでいろいろなイベントをしているのですが、今年度は1月18日土曜日の“学校公開”に合わせて4時間目体育館で“協議会”を開催することになりました。同時に、初めて共催という形で昨年の能登半島地震で派遣された市の職員の方、避難所運営協議会の方、危機管理課の職員の方にお話をお聞きすることになり、その後、20分程度のディスカッションができれば考えています。

また、生徒たちは『防災ウィーク』中に“防災倉庫”を見学し、“マンホールトイレ”を見たりしているのですが、今回初めての試みとなりますが、他の学年や保護者の方たちにも ①“防災倉庫”の公開 ②“マンホールトイレ”の実物を見ていただき ③緊急時には受水槽に蛇口をつけて水を供給できる事を知っていただくために公開するという、3点を提案し実施することになりました。

谷戸二小にもコミュニティスクールもでき、今回は連携してこのような取組をすることができました。二中とも連携して、何か取組ができればと思っています。また、25日にその結果の定例会がありますのでご協力をよろしくお願いいたします。

委員：民生員からですが、声掛けをしてもなかなか民生員要員が見つかりません。欠員地域もあり、次の要員を見つけないとなかなか辞めることも難しく、地域ごとの担当になることで条件的なこともあり簡単には声掛けが難しい状況です。

成績判定に関してお尋ねしたいのですが、中学校での成績判定は校長先生と担任が相談して判断をするのですか。評価基準の見解を教えてください。

- 校長： かなり難しい説明になるのですが、評価評定には観点が3つあります。それらの資料が1つでも欠けてしまうと事実上、成績が付けられないことになります。テストの成績が揃っても、観点が揃わないと成績がつけられないのです。テストだけだと観点、特に3番目の項目で『学びに向かう力』つまり主体的な力のことでありますがその部分が評価できないと成績を付けるのが難しくなります。評価がなくても都立高校は受験できるのでそれが全てではないのですが、そのことが不利になるか有利になるかは分かりません。
- 委員： 『放課後自習室』は9月の4日間で37名、11月の5日間で56名の利用がありました。また、放課後カフェ『くつろぎ喫茶』の利用者は、10月1日(火)は128名でこの利用者数は7月と同じでした。また、委員の方が『かき氷』を持ち寄ってくださったりして盛況でした。また、12月19日(木)は開催予定でしたが、感染症予防のため中止となりました。今後、2月28日(金)は今年度最後の開催予定です。次期PTA会長も決まり、放課後自習室と放課後カフェは継続していければと思います、生徒アンケートを取らせていただきました。お手元のアンケート集計をあとでゆっくりご覧いただければと思います。この資料を基に、次期PTA会でこの案件を話し合い、継続できればと思っています。以上です。
- 委員： 次の2月28日『放課後カフェ』は学校運営協議会の後の開催となりますね。
- 委員： 協議会終了後直ぐの開催になりますので、皆様お立ち寄りいただければと思います。
- 委員： 同窓会の方からですが、今日は協議会の後に役員会議が予定されています。後日皆様には結果をご報告いたします。また、3月29日(土)10時から委員の紹介があります。その時、場所は会議室をお借りできればと思います。総会が5月10日(土)16時から開催予定なのですが、来年度の『ペンキ塗りプロジェクト』に3万円、計上申請したいと思います。
- 副校長： 同窓会の方の「学校の補修代は学校で出すべき」というご指摘は、確かにそのとおりであると思います。ただ学校側から提供できない“ご協力いただいた方々へのお礼や感謝の気持ちとしての飲み物など”に対する予算を出して頂けるのは大変に助かりありがたいと思っています。また今年度の『放課後カフェ』にかかる費用をPTA会から出していただいています、現実問題としてPTA会に参加する方が減少する傾向にあり今後の状況を危惧しています。可能であれば、同窓会の方からその費用も出していただければ少し安心できると思っています。例年予算を組まれると思いますが、“放課後カフェに関わる費用”として予算申請に入れていただければ助かります。以上です。
- 委員： PTA会員は減ってきているのですか。
- 委員： 年々加入されない方が増えてきているので、来年度も更に未加入者は増えると思料しています。現段階でも既に予算ぎりぎりで行っている状態なので今後は心配です。“加入してない生徒も差別しない”という方針のため、例えば『卒業証書のホルダー』とかも全生徒に提供はしている状況です。
- 副会長： PTA会がやっている活動などを保護者にお知らせしているのですか。
- 委員： お知らせは特にしていません。私自身、“PTA会がどういう組織なのか、どのような活動をしているのか”などを全く理解していなかったし知りませんでした。今回、PTAに携わってきて“もっと皆さんにPTA会の活動を知らせるべきだ”と強く感じています。校長先生や副校長先生ともご相談しているのですが、来年度は入学式から“PTA会の活動”などをもっと具体的かつ明確に皆さんにお伝えした上で、加入していただこうと考えています。
- 校長： 現在“PTA会未加入者”というのが大きな話題になっています。小学校でも未加入の方が増加傾向にあり、中学校に入ってもそのまま未加入でいることが常態化してきて、加入者が減少してきています。現在の3年生はほぼ全員加入してい

るので、今年度の卒業生の“証書ホルダー”や“コサージュ”などは買うことができ大丈夫だと思いますが、現2年生と現1年生は加入者が減っていることで、来年度以降では今までのような卒業式にはならないもではと危惧しています。

“今後は教材費で集める”のが妥当ではないのかと考えています。証書ホルダーがないと証書を破損したり、紛失してしまう可能性もあるので必要なものだと思うのですが、“教材”の項目に入らないこともあり、買うことが難しいのも事実です。昔は“卒業対策費”などいろいろな予算項目があったので、それでPTA会にお願いしていました。PTA会長とも相談しましたが、保護者にきっちりと説明して、その上で加入されない方は任意での判断ということもあります。今後のサービスの提供はどの範囲までするのかは、加入人数をみながら、考えるしかないのかもしれないと思っています。

副会長：職場体験に関して、私は保育園とコミュニティカフェをご紹介したのですが、その受け入れ側からのご感想をいただいておりますのでご報告いたします。

保育園からは「保育園は人手不足の折、子どもたちが実質的によく働いてくれて大変に助かりました」と感謝のお言葉をいただきました。また、男子生徒が参加したのですがコミュニティカフェからは「良い経験をしたのではないかと思います。人との対応もとても良かったと感じています。来年も職場体験をお願いしたいと思っています」とのことでした。

委員：「3年生の受験時の評価が学校ごとに評価基準が違いうように感じ、不公平ではないのか」との相談を受けました。“現場でそのようなことを実感することはあるのか”をお聞きしたいと思います。

校長：昔は、評価5の人数が決められていましたが、現在は細かい数字は決められていませんが、“標準分布に近い形でのグラフ配置を出すように”と東京都から指導が入っています。3年生の成績については、全員の成績を一覧表に集め、それを区市町村で必ず審査します。そのため極端な分布評価は通らないことになっています。ただ、何パーセントかの差は当然出てきます。当然ながら、東京都の入試担当部署にはたくさんの苦情が来ていると聞いています。データには学校名は出ませんが、すべてインターネット上で公開されていますので閲覧することができます。西東京市では9校の全教科のパーセンテージが出ています。データの中には、確かに極端な数字の学校も存在しています。その理由として考えられるのが、小さな学校でクラス数も少ないために差が出てきてしまいます。西東京市はきちんと公正な評価がされているという事は確認済みです。

仮に極端な評価を提出した場合、全ての評価資料の提出を求められ、きちんとした説明責任を取らされます。ただ、東京都の全国学力調査などで高成績を獲得した学校などの特殊な理由で極端な評価が出ることがあり東京都も認めることもあります。先生たちの評価3点の観点で資料を提出し、明確な根拠の基で東京都の入試担当部署が精査しています。

委員：今後、市内の学校でも東京都全体としても、極端なことが起きないように仕組みをきちんとやっていただければと思います。

会長：他にご意見がないようなので第4回協議会を終了します。ありがとうございます。それでは副校長にお返しいたします。

副校長：このあと、お時間がございましたら校内見学のご案内をさせていただきます。次回は2月28日金曜日14時半からですのでよろしくお願いいたします。また、お帰りの際にはピンク色の用紙をご提出いただければと思います。本日は忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。